

がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用

研究分担者 三木恒治・京都府立医科大学大学院医学研究科泌尿器外科学教室 教授

研究要旨

日本泌尿器科学会を中心とした泌尿器科がん登録事業と診療動向および予後調査を行った。研究期間中に膀胱がん・前立腺がん・精巣腫瘍・腎盂尿管腫瘍の癌登録の集計を行った。また腎細胞がん登録システムの設定を行った。

A．研究目的

日本泌尿器科学会を中心としたがん登録事業は、1980年から膀胱がん、2001年には前立腺がん、2002年に腎盂尿管がん、2005年に精巣腫瘍の登録が開始された。以後各臓器において5年毎の登録と予後調査が行われており、診療動向と治療成績の変化が検討されてきた。本研究では、過去に行われたがん登録に基づく診療動向および予後調査結果について報告する。また、腎細胞癌に関して全国的な癌登録ならびに腎がんプログラム作成ワーキンググループを発足させることを目的とした。

B．研究方法

前立腺がん・膀胱がん・腎盂尿管腫瘍・精巣腫瘍患者の背景、診療状況の変遷を解析する目的で、患者背景の統計学的比較検討を行い、論文化を行った。

効率的な腎細胞癌の登録を目的と同時に本活動の周知を目的とした広報活動内容を決定した。

（倫理面への配慮）

被験者のプライバシーの保護など、倫理面に配慮する検討を行った。

C．研究結果

2004年度の新規前立腺がん11385症例(239施設)の臨床データを解析した結果、全生存率(5年)は89.7%、癌特異生存率(5年)は94.8%であった。限局性前立腺癌の治療内訳として、内分泌療法が最も多く選択され(39.9%)、欧米諸国と異なる傾向を有することが判明した。1999年から2001年の期間に我が国で登録された非浸潤性膀胱がんの死亡調査から尿細胞診断と腫瘍径が予後規定因子であったことが示唆された。2005年時に新規に診断された腎盂尿管癌登録症例・登録施設数は、1509例・348施設であり、全症例の5年生存率は64%であった。2005年および2008年に新規に診断された、精巣腫瘍の登録症例・登録施設数はそれぞれ、1157例・274施設であり、3年生存率は96.8%であった。

腎細胞癌登録に関しては、専門医教育施設を選定の後、登録依頼を行った。

D．考察

前立腺がん・膀胱がん・腎盂尿管腫瘍・精巣腫瘍の登録データから我が国の診療体系を総合的に解析し論文化した。いずれの登録データからも、わが国における泌尿

器癌症例は比較的予後が良好であると考えられた。また、腎細胞癌に関しても、データベースの集計を行い、治療法の時代的変遷や予後についての解析をすすめる予定である。

E．結論

日本泌尿器科学会を中心としたがん登録事業とがん診療のガイドライン作成に基づく診療動向および予後調査を行った。研究期間中に前立腺がん・膀胱がん・精巣腫瘍・腎盂尿管腫瘍の癌登録の集計を行った。また腎細胞癌登録システムの設定を行った。

F．研究発表

- 論文発表
1) Cancer death from non-muscle invasive bladder cancer: report of the Japanese Urological Association of data from the 1999-2001 registry in Japan. Int J Urol. 17(11) 905-12, 2010.
2) Oncological outcomes of the registered prostate cancer patients diagnosed in Japan: 2004 report from the Cancer Registration Committee of the Japanese Urological Association. Int J Urol. 18: 876-881, 2011
3) Oncological outcomes of the renal pelvic and ureteral cancer patients registered in 2005: The first large population report from the Cancer Registration Committee of the Japanese Urological Association. Int J Urol (in press).
4) Clinical characteristics and oncological outcomes of testicular cancer patients registered in 2005 and 2008: The first large-scale study from the Cancer Registration Committee of the Japanese Urological Association. (in press)
 - 学会発表
該当事項なし
- G．知的財産権の出願・登録状況
- 特許取得
なし
 - 実用新案登録
なし
 - その他：なし